

【信貴山寺の年譜】

元号	西暦	主な事跡
用明二年	587	聖徳太子の創建と伝う。
天智六年	667	高安城築城
延喜年中	901	命蓮上人が再建、旧記に天曆五年(951)寂す。
天曆年中	947	二世・歎算上人
大治元年	1126	覚鏡上人が来山、参籠記一卷を著わす。
保延年中	1135	『信貴山縁起絵巻』を著わす。
元弘三年	1333	大塔宮護良親王が当山に布陣す。
応永二年	1395	本堂焼失(大乘院日記)
文明十五年	1483	本堂焼失(大乘院日記)
永禄元年	1558	松永久秀が信貴城を築く。
天正五年	1577	松永久秀の乱により堂塔伽藍は悉く焼失、本尊毘沙門天王は難は免れる。
天正六年	1578	快信阿闍梨が仮本堂を建立して本尊を安置、並びに千手院を再興して中興祖となる。
慶長七年	1602	片桐且元が普請奉行として、豊臣秀頼の寄進で本堂及び諸堂宇を再建す。
寛文四年	1664	快典阿闍梨の代に、寺宝の大信貴、小信貴二管はこの時代作か、竝は信貴山を根本とす。
貞享四年	1687	快益阿闍梨の代に、鐘樓及び鐘樓堂再建。
元禄二年	1689	多宝塔建立。
元禄十四年	1701	深川永代寺で出開帳、桂昌院より葵御紋つき仏具をたまわる。
宝永元年	1704	玉蔵院を再建して覚如和尚が住職となる。
		江戸に出て、將軍綱吉の生母桂昌院から寄進をうけ寺領の安堵を得る。

安永二年	1773	快心阿闍梨の代に、吉野修験十二先達を兼務する。
寛政二年	1790	快清阿闍梨の代に、成福院を再建、多宝塔を大修理、本堂の舞台造り再建、境内の整備など行う。
寛政五年	1793	有栖川親王殿下の御祈願所
文政六年	1823	十二月に東福院より失火して無量寿院・福蔵院を類焼、之より退転す。
天保七年	1836	玉蔵院焼失、松永兵火以来の文書を焼く。
天保十一年	1840	落雷により山内から出火、松永の兵火以来の文書など焼く。
明治維新	1868	快田阿闍梨の代に、廃仏毀釈に苦慮した。
明治二十四年	1892	盛延阿闍梨の代に、玉蔵院と宝寿院を合併して現在に至る。
明治四十二年	1909	本堂改修
大正三年	1914	本堂竣工
昭和二十六年	1951	本堂焼失。高野山真言宗より独立して「信貴山真言宗」を創立す。
昭和三十三年	1958	野澤密全師・鈴木了道師・田中真弘師が協力して本堂再建して現在に至る。
平成九年	1997	鈴木風永師・野澤密巖師・田中真瑞師が協力して本坊新築す。

「付 記」

中世以降、信貴山寺は本山に属さず無本寺格として、奈良興福寺の塔頭・大乘院に籍を置いていましたが、明治維新の神仏分離令により高野山真言宗となりました。当時は千手院・無量寿院・光明院・本覚院・成福院・東福院・玉蔵院・福蔵院・宝寿院の九院を構えていましたが、近年に合併して三院となりました。

明治七年、「大阪府寺社係」に提出した資料及び「信貴山雜記」・「千手院代々記」等を基に年譜を作成しました。